

アメニティ 観光・交流 交通政策
ほくりく しんかんせん じょうえつ みょうこうえき

北陸新幹線上越妙高駅

しゅうへん

周辺地区（第二期）

（新潟県上越市）

- 計画期間 平成24年度～平成28年度
- 面積 376ha
- 交付対象事業費 8,687.4百万円
- 市人口 185,892人

ポイント 交通の利便性をいかした広域的な拠点性を強化する魅力的な都市づくり

地区概要 上越妙高駅を核に、様々な出会い・触れあいの拠点づくりを行うとともに、既存市街地環境を改善し、誰もがいきいきと働き、暮らせる拠点の形成を図る。

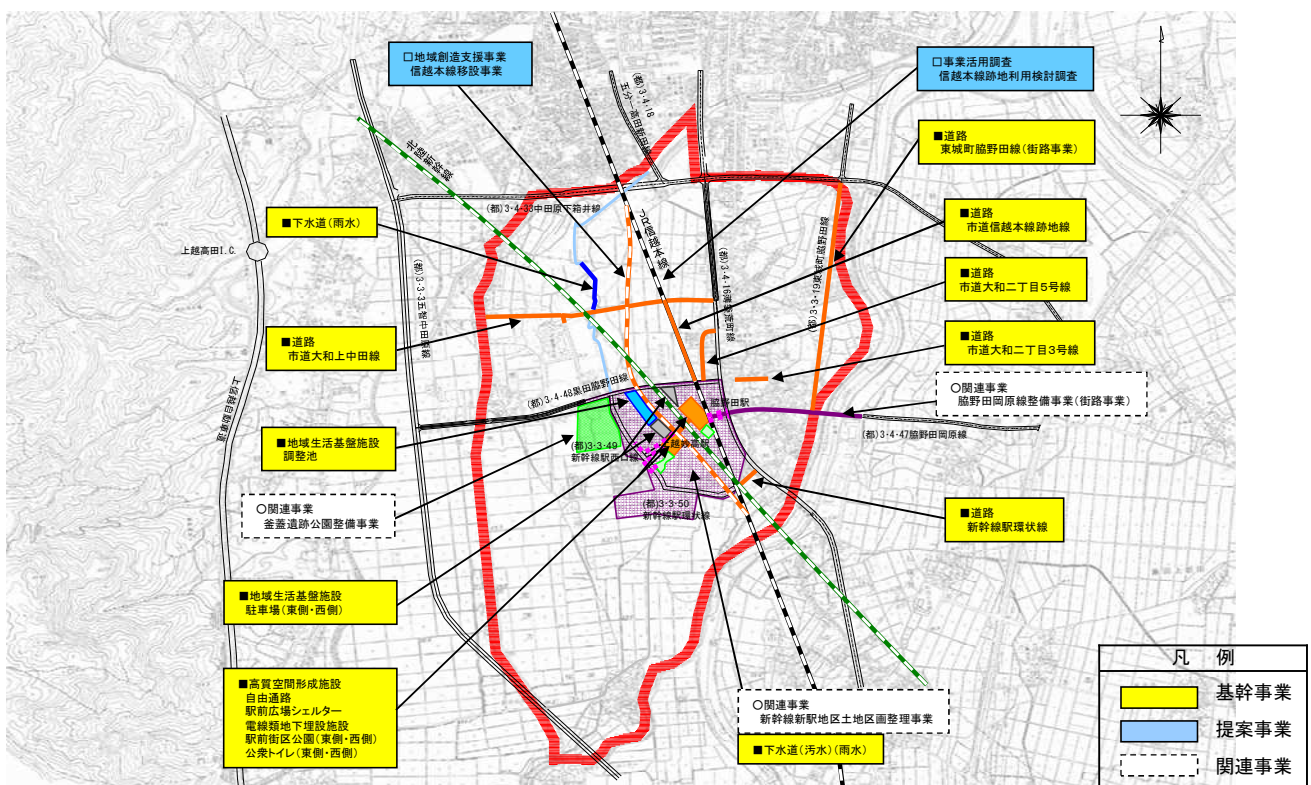
目標 上越妙高駅を中心として新しい玄関口にふさわしい利便性や快適性を有する質の高い都市空間を形成し、既存市街地の都市基盤整備を合わせて行うことにより周辺地域へ新幹線効果を波及させる。

指標 利便性や快適性を有する都市空間の整備を住民とともに行うことにより、まちづくりに関する関心を高め、生活環境に対する満足度を向上させることを目標とした。

駅前広場整備の満足度	25.3% (H23)従前値	→	60.0% (H28)目標値	→	34.1% (評価値)
駅へのアクセス性(満足度)	51.7% (H23)従前値	→	62.0% (H28)目標値	→	70.7% (評価値)
区域内の世帯数	1,350世帯 (H23)従前値	→	1,400世帯 (H28)目標値	→	1,573世帯 (評価値)

事業内容 基幹事業（5,466.2百万円） → 道路（延長3,263m）、下水道（面積21.5ha）雨水排水路（延長278m）調整池、駐車場、自由通路、駅前広場シェルター、電線類地下埋設施設、駅前街区公園、公衆トイレ

提案事業（3,221.2百万円） → 信越本線移設事業（延長1,800m）、信越本線跡地利用検討調査



地区の現況と課題

平成 27 年 3 月 14 日に開業した北陸新幹線上越妙高駅の周辺に商業業務機能、情報交流機能など多様な都市施設を誘導するとともに、新幹線整備効果を周辺地域へ広く波及させるため、上越妙高駅へのアクセス道路の整備や土地区画整理事業による既存市街地整備などを一体的に実施したことにより、都市基盤の構築と広域的な拠点性の強化が図られた。

提案事業の特徴

信越本線移設事業

北陸新幹線上越妙高駅は、旧 J R 協野田駅の約 120m 西側に設置される計画であったため乗換抵抗が生じ、さらに駅前が鉄道に挟まれた三角形の土地となるため、広域駅としての駅前空間が十分に確保できないなど、多くの課題が発生することとなる。そこで、信越本線を上越妙高駅の西側に移設し、一体駅として整備を行うことにより、鉄道ネットワークの充実強化と高齢化社会に配慮した乗り継ぎ円滑化、並びに鉄道の利用促進を図り、併せて、信越本線の移設に伴い幹線道路との離隔を十分に確保したことにより、駅前広場を始めとする公共施設の適正な配置と有効な土地利用を図った。

信越本線跡地利用検討調査

新幹線の整備に合わせて移設する信越本線の跡地は市の土地になることから、地区にとって有効な土地利用を図る整備を行うため、既設鉄道施設の概算撤去費を算定したうえで費用対効果を見据えながらワークショップ、アンケート調査等により地区住民等の意見を聞いて跡地利用検討調査を実施した。

計画策定プロセス

まちづくり協議会の設置

上越妙高駅周辺のまちづくり及び地域の活性化に寄与するため、地元住民によるまちづくり協議会を設置し、各部会で様々な活動が行われた。



▲北陸新幹線上越妙高駅建設 当初



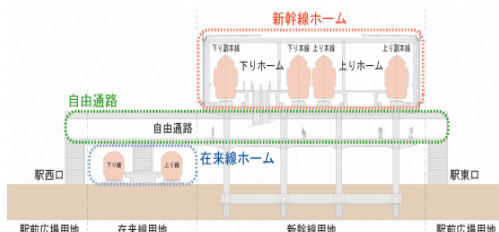
▲北陸新幹線上越妙高駅建設 完了



▲上越妙高駅（西口側）



▲上越妙高駅（東口側）



▲信越本線移設事業計画図